

文化・芸術

「透明な時間」

2018年、クスノキ、彩色
作家蔵(写真撮影・木暮伸也)

丸尾康弘 (1956年)

静かに座る白髪の老人は、展示室の入り口で、私たちを迎えてくれます。少し開かれた口から、優しく呼びかけてくれるような気がしますね。「作家はいつも自分のバックボーンを探しているのだろう」と語る丸尾康弘の創作の原点には、幼少期に大自然の中で共に過ごした祖父との豊かな時間があるといいます。

丸尾は学生時代、佐藤忠良(1912〜2011年)に師事し、抽象的な石彫作品を制作していましたが、卒業後は木彫へと変化。1996年ごろからは家族をモデルにした座像の連作を始めます。

85年、榛名町(現高崎市)に移住し、2001年からは制作の場を桐生(無鄰館)に移します。現在は生まれ故郷である熊本県山鹿市と桐生市にアトリエを構え、二つのアトリエの行き来の中で制作を続けています。3月29日まで、渋川市美術館で個展「今、こどもたち」も開催中です。(池田)

※企画展「桐生のアーティスト2020」は3月22日まで。出品作家は、石原彰一、金原寿浩、小林達也、小松原洋生、丸尾康弘、圓山和幸、森村均、山口晃。月曜休館。

名画の扉

大川美術館企画展から

